

こんなな虫が こんなところで



監修

夏秋 優

兵庫医科大学皮膚科学教室 助教授

●ハチ刺症

刺された瞬間に
痛みと赤み



好発部位：顔、首、手足

●線状皮膚炎

体液が付いたところに
ヒリヒリ感と線状の赤み



好発部位：顔、首、手、腕

●アオバアリガタハネカクシ

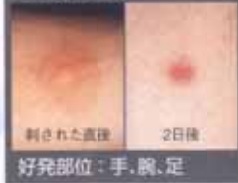


●アカイエカ



●カ刺症

刺されたところに
かゆみと赤み



刺された直後 2日後

好発部位：手、腕、足

●ブユ刺症

刺されたところに
強いかゆみと赤み



好発部位：顔、首、手、足



●ムカデ咬症

かまれた瞬間に激痛



好発部位：手、足



●毛虫皮膚炎

毒棘のくさくさによる皮膚炎
触れた瞬間に激痛



好発部位：手、腕

●ノミ刺症

刺されたところに
強いかゆみと赤み



好発部位：ひざから下

●ダニ刺症

刺されたところに
強いかゆみと赤み



好発部位：下腹部、わき腹

●毛虫皮膚炎

毒針毛のくさくさによる皮膚炎
触れたところに激しい
かゆみと赤いぶつぶつ



好発部位：腕

かゆみや赤みなど
「おかしい?」と思ったら、
ご相談ください

住友製薬株式会社
大阪市中央区道徳町2丁目2番8号
企画・制作：有限会社 タイコ

ユーシーピージャパン株式会社
東京都千代田区神田駿河台2丁目2番地

ZYR-K-18
2002年10月作成MABOITA

皮膚炎をもたらす身近な虫



スズメバチ
体長：約22～45mm
被害の多い時期：夏から秋



ブユ
体長：約2～7mm
被害の多い時期：主に夏



イラガの幼虫
体長(終齢幼虫)：約25mm
被害の多い時期：8～9月



ネコノミ
体長：2～4mm
被害の多い時期：
夏に多いが、
春、秋にも起こる



ヒトスジシマカ
体長：約4.5mm
被害の多い時期：
春から晩秋

アオバアリガタハネカクシ

体長：約7mm
被害の多い時期：
初夏から秋、
とくに夏の夜に多い



ミツバチ
体長：約10mm前後
被害の多い時期：
春から秋



ムカデ
体長：約10cm
被害の多い時期：
春から秋



チャドクガの幼虫・成虫
体長(終齢幼虫)：約25mm
(成虫)：約10mm
被害の多い時期：5～10月



アシナガバチ
体長：約20～26mm
被害の多い時期：
夏から秋に集中



アカイエカ
体長：約5.5mm
被害の多い時期：
春から晩秋



ヒロヘリアオイラガの幼虫
体長(終齢幼虫)：約25mm
被害の多い時期：7～9月



イエダニ
体長：雌0.7mm 雄0.4mm前後
被害の多い時期：
初夏から秋(最近是一年)

気づかぬうちに こんな植物が こんなことを

監修
久保容二郎
久保皮ふ科医院院長

1. そのものにアレルギーを持つ人にだけおこる

日常生活のなかでかぶれをおこしやすいもの

ウルシ、漆器、ハゼ、ギンナン、サクランソウ、マンゴーなど



ハゼノキに
触れた翌日



1ヵ月間続けて
サクランソウを手入れ



漆塗りの着使用、
3ヵ月後



大量に取り扱っている人にかぶれをおこしやすいもの(職業性)



生花店でたびたび
アルストロメリアに触れる



キク、シソ、レタス、タマネギ、
アルストロメリア、ミズゴケ、シクラメン、
ダリア、ケヤキ材など

かぶれをおこしやすい精油

ラベンダー油、ハッカ油、シナモン油、クローブ油など



風邪の治療に3日間民間薬
(クローブ油含有)を塗る

2. アレルギーの有無にかかわらず、刺激によっておこる

機械的な刺激によってかぶれる



シュウ酸カルシウムの針状結晶がおもな原因
ヤマモ、アロエ、パイナップル、キウイなど

トコロ擦取、
翌日



トゲが原因
サボテンなど



アロエの葉のゼリーを塗布、
4日目



化学的な刺激によってかぶれる



ニンニク、センニンソウなど

切った
生ニンニク貼布、
1日後



3. そのものにアレルギーを持つ人が、光に当たっておこる

レモン、
ダリアなど



4. アレルギーの有無にかかわらず、大量に食べるとおこる



シイタケなど

焼いた
生シイタケ摂取、
2日後



かゆみや腫れなど「おかしい？」
と思ったら、ご相談ください

皮膚炎をもたらす身近な植物



ウルシ(ウルシ科)★春～秋
ウルシとツタウルシに過敏な人は、傍に近づいただけでかぶれることがある

スギ(スギ科)★2～4月
顔面に多く見られる。スギ花粉による症状のひとつと考えられている

マツ(マツ科)★3～6月
目の周りに多く見られる。スギと同様、花粉との接触によっておこる

ケヤキ(ニレ科)
生木によるかぶれの報告はなく、材木によっておこる

ハセ(ウルシ科)★春～秋
ウルシの仲間。季節に関係なく、木や枝の切り口にふれるとかがぶれる

キク(キク科)★5～9月
栽培農家や取り扱っている人に大量に扱っている場合におこりやすい

シソ(シソ科)★6～9月
キクと同様、栽培者に多い。かぶれの原因物質はゴムやビニールの手袋をはめても透過する

アルストロメリア(ヒガンバナ科)★5～11月
栽培農家、花屋など、扱う頻度が高い場合におこりやすい。チューリップの球根にも同じかぶれの原因物質が含まれている

ミスゴケ(ミスゴケ科)★春
園芸材料であるミスゴケは、ラン科植物、湿水性植物の用土として使われることが多い。これらの植えかえ時期にかぶれもおこりやすい

ギンナン(イチョウ科) & イチョウの葉★10～11月
ギンナン果皮に含まれているかぶれの成分は「ウルシかぶれ」の原因物質と化学構造が似る。ウルシでかぶれる人はギンナンにもかぶれることがあり、葉でもかぶれをおこす

レタス・サニーレタス(キク科)★夏～秋
栽培農家に多いが、販売業者や調理師は季節を問わず被害にあう。切り口から出る白い乳液が原因物質である

シクラメン(サクラソウ科)★12～3月
葉や茎の汁にふれてかぶれる

レモン(ミカン科)
顔面の美容パックをした後に日光にあたると、かぶれたり、しみができたりする

タマネギ(ユリ科)
調理師や調理する人に多くみられる。刃物を持たない(利き手の反対の)手の指におこりやすい

サクラソウ(サクラソウ科)★2～4月
トキワザクラ(オポコニカ)によるかぶれが多い。原因物質は葉や茎に生えている毛に含まれている

ラベンダーオイル(シソ科)
アロマテラピー*の流行により、最近被害が増えている。*アロマ=香り・テラピー=療法: リラックス効果や美容の目的で行われる

シイタケ(キシメジ科)
生シイタケを焼く、煮るなど調理して食べたり、乾燥シイタケのもとし汁を多量に飲むと、顔、手や腕、背中に強いかゆみを生じることがある

パイナップル(パイナップル科)
おもな原因は果肉・果汁に含まれるシュウ酸カルシウムの針状結晶である

マンゴー(ウルシ科)★3～6月
汁が付きやすい口の周囲に多く見られる。マンゴーにかぶれる人はウルシ、ギンナン、カシューナッツにもかぶれやすい

ヒマシ油(トウダイグサ科)
軟膏や化粧品原料になっており、その成分が含まれている口紅でかぶれたケースが多い

ヤマモ(ヤマノイモ科)
皮をむく時や、ドロロを食べた後に手指や口の周囲がかぶれる。ヤマモ(根茎)に含まれるシュウ酸カルシウムの針状結晶が皮膚に突き刺さって症状をおこす

生ニンニク(ユリ科)
水虫、湿疹などの患部に汁を塗ったり、履物に付いたりして、かぶれる

ハッカ油(シソ科)
肩こりなどの患部に塗られることがあり、濃厚なものを直接塗るとかぶれやすい

ダリア(キク科)★春～夏
触れておこる場合と、触れたところに日光があたっておこる場合がある

ニンニク(ユリ科)
(栽培農家では12～6月)栽培農家に多いが、タマネギと同様に調理師や調理する人では利き手と反対の手の指先に多くみられる

ウルシ(ウルシ科)
十分に乾燥していない濾器などの工芸品にふれると、かぶれることがある

センニンソウ(キンポウゲ科)★秋～冬
葉をもんで汁を手首に塗るという古くからの風邪の民間療法で、塗ったところがかぶれる

サボテン(サボテン科)
トゲが刺さって皮膚炎がおこる。軽く触っただけでもトゲが刺さるサボテンもある

キウィ(マタタビ科)
果実内に含まれるシュウ酸カルシウムの針状結晶によっておこる。皮を素手でむいた場合に多くみられる

キダチアロエ(ユリ科)
火傷などの治療にゼリー状の葉肉を貼付したとき、かぶれる。葉肉に含まれるシュウ酸カルシウムの針状結晶がおもな原因である

★被害の多い時期
記載のないものは時期が特定されない